

# 北海道医歌人会詠草

## JR留萌本線 (2)

北広島 古屋雅三知

恵比島を過ぎれば峠に差し掛かる 曲がりくねりて軌む鉄輪  
春浅く雪融けやらぬ山間を走る単線 峠を越えて  
目に映ゆる五つの文字は『ありがとう』 雪に書かれし 幌糠の駅  
終点の留萌の先は鉄路錆び舎熊・増毛は遠くになりぬ  
また一つ鉄路は消えぬ 最果てに100と余年の歴史刻みて

## 青葉園

函館 水関 清

執念でゴールラインに脚伸ばし 1ミリの運 掬ひ上げたり  
弧を描き せり上がりゆく頂点に 月の近づく大観覧車  
「きょうぼくはテレワークする」と登園を しぶりし幼な はや小学生  
「春一番」「微笑がえし」で 満ち足りた あの春の後楽園球場  
クアン・フリー・カウ村の伝統は美し 路傍に香る 竹線香の花

## くらヌード

士別 竹内 幹夫

あどけなき口元の笑み眼を細む 久しぶりなる来賓の朝  
この人はこんな顔かと瞳目す マスクなきかほみな美しき  
デパコスでヌードカラーを勧められ サクラリップにほつとうなづく  
口紅の周りの肌はほの白く 薄めが素敵と君に囁く  
仕上げしてお似合いですねと笑顔する 美容部に口元は無し

## 記憶の中の大震災

滝川 村田 英俊

地球よ いまどんな気持か 速報のM6.7 かなり揺れている  
大震災 日ごとに死者の数ふえぬ 数える側に我は居るなり  
市役所が聖地に見ゆる断水と停電つづく大震災の夜  
断水の終りて 熱いコーヒを淹れば踊り出したい気分  
余震減り 水と電気の戻りても店にもなく 人に笑顔なし

## 涙

江別 三宅 浩次

優しさとずるさの二つ併せ持つ人の世をゆく無情の知恵か  
心には神と悪魔が住み着いて時と場合を秤にかける  
嬉しさと真逆のときの悲しさと いずれも溢れる涙の不思議  
歳ゆけば強がる心も衰えて思わぬ涙にふと気づく我  
涙腺は体の機微の面白さアンビバレントはこのことなのか

## スノウドロップ

札幌 浜島 泉

庭に咲くスノウドロップ 道を行く人は装い殊にフレツシユ  
昨日朝雪を払ひしキヤラの枝 今日空をば見上ぐる姿  
季節めく木々のみならず 街を行く新社会人の足並み豊か  
メモを見てバス路線図を確かむる バッグ艶やか初出勤の人  
学校の前のバス停降りてゆく 新学期前新教師にや

## UNE VIE

釧路 兎玉 昌彦

満々と涙たたえる湖かかえさざ波立てばただらにあふれて  
危惧したる再発・闘う暇なく卒然と逝けり四十五の春  
夫と別れ新たな一歩踏み出せし足未だ地につかざる時に  
自由求め風の歌数多遺したる君は自ら風となりしか  
女として自己充実求めたくましく生きぬきし証 二冊の歌集